

---

# ディブレイク

烏龍茶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

デイブレイク

### 【Nコード】

N7785N

### 【作者名】

烏龍茶

### 【あらすじ】

原案 <http://www.nicovideo.jp/watch/sm12003668>

勝手にすみませんorz

元案 <http://www.nicovideo.jp/watch/sm12003668>

バイトの帰りの途中、突然雨が降り出した。

（そういや、控室に傘一本置いてたよな？）

・・・ いまから取りに戻るのもアリか、。。

思い立つも、しかし、直サマ思い出す。

（イヤたしか、無くなってたぞ。）

「・・・まったく、誰が持っていきやがったのか、。。。」

結局、ポツポツと降る雨に打たれながら、アパートまでの数百メートルの帰路を歩いた。

『ガチャっ。』、ドアを開けて、  
キー、

『ボタンっ。』、閉める。

たっ、たっ、たっ、

『パチッ。』、電気を付けて、

ドサッ。と、買い物袋を玄関先に置き、

「はあー。」、溜息をつく。

バサッ、と服を脱ぎ捨てて、

「あああ、つかれた、つかれた。」などと云いながら、

『ばふッ。』と、ベットに飛び込み、シーツの海に顔をうずめた。

「ふー、」と、ひとつ息をついて仰向きになり、ベッドの上に放置していた漫画に手を伸ばす。

しばらくしてコーヒーを淹れるためベッドから降りた。

「あ、そっぴゃレポート月曜までじゃん。」

コーヒーをスプーンでかき混ぜながらそんなことを思い出す。  
(まあでも、土、日曜とあるし、。。。)

「明日からでいいよな、。。。。」

座卓の上のパソコンに向かう。

なまけている。

やるべきことを部屋の隅へと追いやって、  
何をするでもなく、こうして時間を潰している。

背徳感はある、しかし、気力を起こせない。

最近は何に出ようと腰を浮かすのにも、先にため息が口から出てしまう。

いつたい、何時から？

そんなモノローグにまた、溜息がこぼれる。

その溜息は淹れたばかりのコーヒーの湯気に溶けて消えた。

『元氣してた?』

何だよ突然、吃驚したじゃないか。元氣だよ。

『そう、よかった。、、えっと、小説はまだ書いてるの?』

いや、この頃はめっきりだなあ。

『そうなの? ざんねん。』

ははっ、んだよ、あんなもん面白くもなないだろうに。

『うん、私は好きだったよ。・・・君の小説。ねえ、、』

っ。

(・・・夢か。)

座卓に突伏していた顔を上げる。

PCの時刻表示は12:30を記していた。

窓の外はどんよりとした灰色が広がっている。

どうやら、昨晚の雨は止むどころか強さを増したようであった。

『ズズズッ』、冷めたコーヒーを啜る。

「・・・にがつ。」

“降りしきる雨の中、彼女と僕は立ち尽くしていた。”

レポートを書いている。

“彼女は云う、『私は大罪を犯してしまいました、貴方の隣には  
いられない。』涙を流し、彼女はそう云う。”

月曜に提出する、レポートを書いている。

“そんな彼女に、僕は云つた、『たとえ貴女が死神なのだと  
しても、私は貴女と共に居たい。』その為なら、此の手を汚すことも恐  
れはしない。と。”

どこからどう見ても、

雨が逆流を始める。水溜まりから雫が天へと舞い降り始める。

“

レポートを、。

•  
•  
•  
•  
•  
•  
○

「ドおう　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　あ  
あ　あ　あ　あ　あああ！……！！……！！……！！」

叫んだ。

『ダンっ!』 『だん!』

「あ、さーせん。」

お隣さん両サイドからお叱りを受けた。

俺は何がしたいんだろう？

時刻は深夜4時を回った頃、ふと、暗い部屋のベッドで横になりながらそんなことを思った。

「もう、日曜なんだよな。」

レポートもさつき終わったし、今日はバイトもないし、。。。  
・・・寝るの、もったいなくないか？

「お？」

閉めたカーテンの合間から紅色が差し込んで来た。

「晴れたのか。」

港が傍に在るこのアパートには、海の反射を受ける綺麗な朝焼けが窓から差し込む。

よし!と、ベッドから腰を浮かせ、一直線に外へ出た。

溜息は出なかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7785n/>

---

ディブレイク

2010年10月9日12時57分発行